

1 学校教育目標

・かしこい子 ・思いやりのある子 ・たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	「笑顔・あいさつ・思いやりがあふれる本木小」(キャッチフレーズ、合言葉) ・子どもが主役となり、学ぶ喜びを実感できる学校 ・誰もが居心地のよい安心安全な学校 ・保護者や地域から信頼される学校
○児童・生徒像	・自分も人も大切にすること(自己肯定感、コミュニケーション能力) ・自分で考え行動すること(主体性) ・自分の言葉で表現すること(表現力) ・チャレンジすること(向上心、忍耐力)
○教師像	・児童の模範となる教師 ・組織で協働して働く教師 ・保護者・地域から信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- ・児童は明るく素直である。落ち着いた中にも活気のある姿が多く見られるが、自尊感情が低い傾向がある。
- ・教職員は、若手教員が多い中、よりよい学校を創っていこうと日々一生懸命努力しており、授業力の向上にも力を注いでいる。
- ・保護者・地域も学校に期待を寄せており、教育活動に協力的である。生活習慣や家庭学習などの定着に向けて、さらに連携を深めていく。

【前年度の成果】

- ・学校評価の「確かな学力の定着」に関する3項目について、児童・保護者ともに約85%以上が「よくできている」または「ほぼできている」という結果であり、一定の評価は得られたと考える。今後も教師の授業力向上を図っていく。また、全校朝会等、全児童が集まる時は、時間通りに集まり、静かに人の話を聞くことができている。学校生活を送るための「本木5つの約束(学習・生活)」は浸透してきている。
- ・様々な場面で「成長は変化 ライバルは昨日の自分である」ことを伝え、自分の成長を意識させるようにしてきた。計算コンクールや「体力アップ記録カード」の取組など、児童の成長の「見える化」をすすめ、自分の成長を実感させることに努めてきた。
- ・東京都教育委員会人権尊重教育推進校として研究授業を(7本)行った。11月には研究発表会を開催し、成果と課題を確認することができた。
- ・1.2年 hyper-QU、3~6年 WEBQU を年に2回実施。SCによる5.6年生全児童面談の実施。週1回の教育相談委員会(管理職・養護教諭・専科・特別支援教室専門員等)実施。学校全体で、配慮すべき児童を確認し、支援していく体制をさらに整えてきた。学級生活満足度は57.1%(全国平均42.5%)
- ・R2年度より、本校の児童の課題である、長座体前屈(柔軟性)、ソフトボール投げ(投力)、シャトルラン(持久力)の記録(平均)を、年に2回とっている。持久力の向上が認められた。持久力をあげる「本木ランランラン」の取組が効果的であった。
- ・学校評価「学校・家庭・地域の連携」における満足度は90%であった。PTA主催による「本木ふえすた2023」、図書ボランティアによる「読み聞かせ」、校外学習などで、地域・保護者の方々との関わりを多くもつことができた。

【前年度の課題】

確かな学力の定着

- ・児童自ら、「自分の成長」を感じられるような指導・授業を行う。
- ・児童自ら、つまずきをのりこえられるような指導・授業を行う。

思いやりのある子の育成

- ・児童が安心できる環境（心・場・時）に整える。
- ・一人一人の教師が自らの人権感覚を磨き、人権意識を高めていく。

たくましい子の育成

- ・複数の教員で児童を指導し、児童を多面的に理解する。
- ・児童が健康でたくましく成長できるよう、体力向上の取組を強化する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン 確かな学力の定着	◎	◎	◎	◎	◎
2	思いやりのある子の育成	◎	◎	◎	◎	◎
3	たくましい子の育成	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
子どもが主役となり、学ぶ喜びを実感できる授業の実現		2教科とも通過率75%以上				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	「足立スタンダード」を基にした授業改善	○全学年 ○全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上の研修計画 (板書計画の重視) ・教科担任制・専科副担任制の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業 8回実施 ・校内公開授業 1人2回 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての研究授業の実施 ・公開授業 1人2回以上実施 	自己評価の際に記入		

2 継続	基礎・基本の定着「読み・書き・計算」	○全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算コンクールの実施 ・視写 ・調べる学習コンクール全員参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月実施 ・火曜日朝実施 ・年1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の記録向上 ・書く力の向上 ・全員提出 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>
3 新規	ぐんぐんタイム	○全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週木曜日の放課後に、全教員が参加し補充学習を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間各学年35回以上実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内単元テスト平均正答率85%以上 ・区調査予備調査通過率75%以上 	
4 継続	読解力向上タイム	○国語	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・水曜5校時 全校で読解力向上タイムを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級年間35回以上実施 		
5 継続	AIドリルの積極的活用	○国語・算数を中心	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・キュビナのワークブックを活用した宿題・自主学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・全児童毎月200問以上 	

重点的な取組事項－２		思いやりのある子の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
誰もが居心地のよい安心安全な学校		<ul style="list-style-type: none"> ・ hyperQU・WEBQU の要支援群等の児童や学級生活満足度尺度の改善 ・ 自己肯定感の向上(前年度等の比較) 	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①人権教育の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業 8 本 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権尊重教育推進校発表会に向けて、研究授業の充実 ・ 人権集会（年 5 回）、人権の花運動、人権メッセージ、人権ポスター 	自己評価の際に記入		
②本木・本気プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年で 1 本以上 ・ 発表の場を設定（互いの活動を伝え合い、認め合い、高め合う） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年が一体となつての取組 ・ 取組を発表する場の設定（児童自らが、学校生活をよりよくしていると実感できるような取組とする） 			
③自己肯定感の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ WEBQU・hyper-QU を全学年 2 回実施。要支援群等の児童等の状況改善。親和的な学級の増加 ・ 年 4 回以上の「俳句創作」実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分析と改善計画 ・ 年 4 回、季節毎に創作し、感性・語彙力を磨き、豊かな心を育む（コンクール等にも参加） 			
④特別支援教育、教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者アンケート（心を育てる指導）より、80%以上が肯定的回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内委員会での情報共有と改善確認（毎週金曜日） ・ 生活指導夕会での情報共有と改善周知（毎週月曜日） ・ 特別支援教育に関する教員の専門性向上 ・ ユニバーサルデザインの推進（学校全体） 			

重点的な取組事項－3		たくましい子の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
規則正しい生活と体力・運動機能の向上		R5年度以前と比較し、 R6年度に改善あり	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①規律正しい学校生活の徹底	・児童アンケートにより、90%以上が肯定的回答	・定期的なアンケート実施 (年3回以上)	自己評価の際に記入		
②健康・体力向上	・毎回の体育の授業で課題を解決するための運動の実施と運動量の確保 ・都や本校の体力調査の記録等と比較 平均値の上昇	・「体力アップ記録カード」を活用し年2回記録を実施 ・研修にて、教員が課題(柔軟性・持久力・投力)改善のための運動を習得し、授業で継続的な取組			
③保健指導・食育指導の充実	・生活習慣アンケートをとり、R5年度と比較し改善	・「生活リズムカード」等の実施 ・養護教諭や栄養士と連携した保健指導や食育指導の充実 ・保護者会や各種便り等を活用し、保護者への啓発	自己評価の際に記入		

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。